



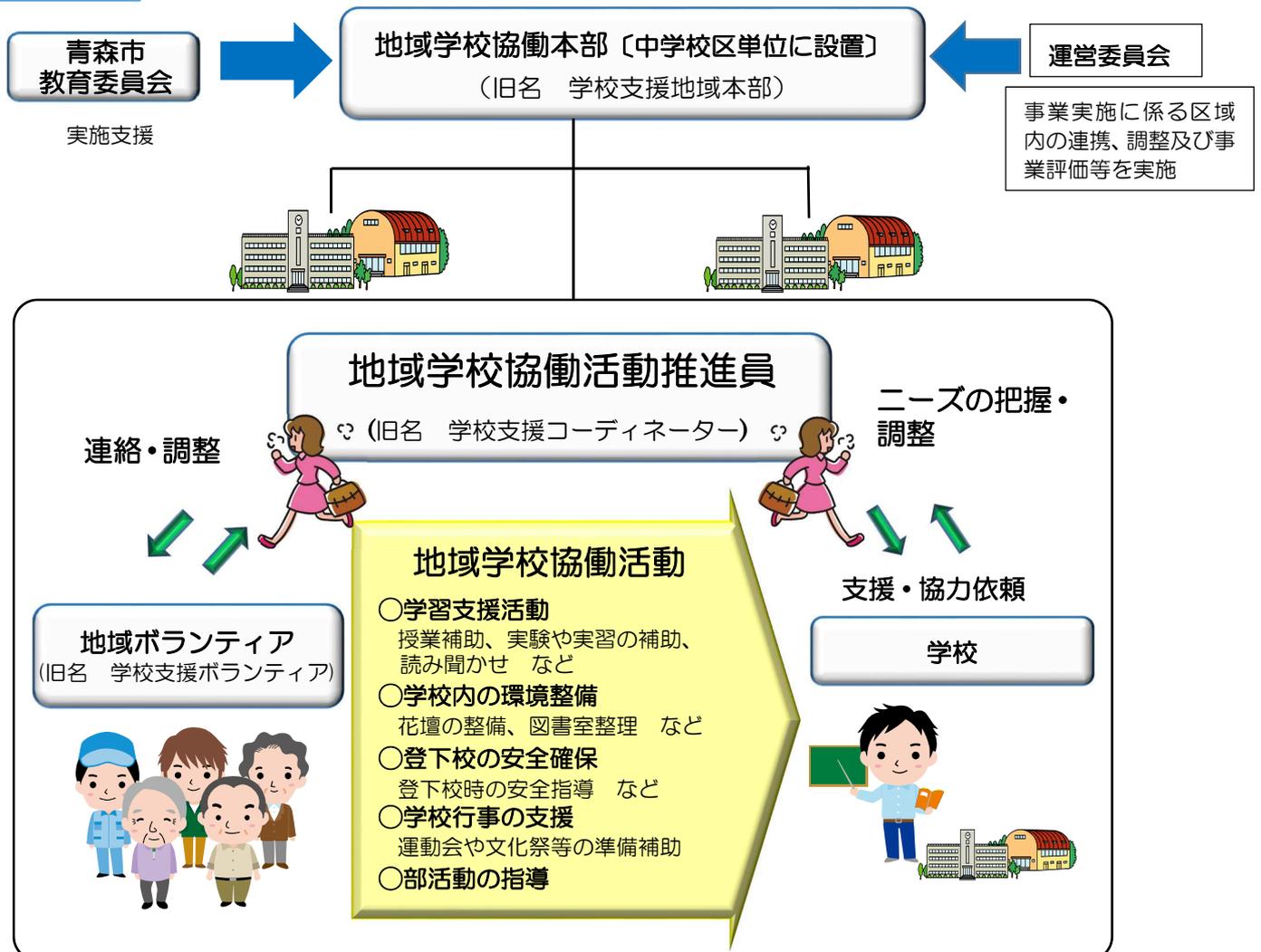
発行：青森市教育委員会事務局文化学習活動推進課  
〒030-0801 青森市新町1丁目3-7  
TEL：017-718-1376 FAX：017-718-1371  
E-mail：bunkagakushu@city.aomori.aomori.jp

## 地域と学校との協働体制（地域学校協働活動）

青森市では、平成20年度から地域ぐるみで学校運営を支援する体制の整備を進め、平成31年4月からは市内の全小・中学校で学校支援地域本部事業が実施されています。

今年度から名称を「地域学校協働活動推進事業」と改め、引き続き支援体制の充実を進めてまいります。それに合わせ下図のとおり名称が改められたものもありますが、活動内容はこれまでと変わりません。今年度も地域社会と学校が連携・協働して、学校を核とした地域づくりを目指し、子どもたちの学びを支援してまいります。

### イメージ図



## インタビュー

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市内小・中学校は休校等の措置をとり、地域学校協働活動もその開始時期が大幅にずれ込みました。そのような状況下で、今年度の地域学校協働活動を推進員の方々と進めている市内小学校の校長先生お二人にお話を伺いました。

### 青森市立戸山西小学校

校長 三浦邦良 先生

コロナ対応のための活動自粛期間は、学校の動きをメールや学校便りで推進員に送り、活動再開に向けて情報の共有を図っていました。戸山地区の特色は、ボランティアの活動を含め、地域全体が学校を支えようという思いにあふれていることです。分散登校による教育活動の開始時も、地域の交通安全協会の方々が朝の安全指導に立ったり、下校時の見守りについたり、子どもたちの安全を守る活動をしていただきました。

小・中の連携が昔から強いことに加え、地区内の交通安全協会や町会等の団体は結束力があり、子どもたちの健やかな成長のため、様々な活動に自主的に取り組んでいただいています。推進員はそれぞれの団体との連絡調整を行い、地域が学校を支える動きを効果的に繋ぐ役割を果たしています。

今年度は、地域の方々からの寄贈図書 of 整備を含めた学校図書館の充実を図ることに加え、ボランティアの募集を広く行い、保護者や地域に支えられた教育活動を一層進めたいと考えています。

地域学校協働活動推進員

里村 伸子さん 内海 朋香さん

### 青森市立泉川小学校

校長 長内宏明 先生

臨時休業期間も教頭が推進員と電話やメールで連絡を取り合い、教育活動開始後の動きについて打ち合わせをしていました。

本校は、伝統的に学校支援活動に対する積み上げがあり、代々の推進員の活動が地域にも保護者にも浸透しています。そのおかげで5月末の学校再開時には、迅速に下校時の見守りや新入生の給食時の手伝いなどの支援活動に取り組んでいただきました。毎年行われる支援活動をしっかりと維持する体制が出来上がっていると感じました。

推進員が持つ知識や経験、仕事の進め方や、地域の人的財産を生かすネットワークは、学校の教育活動を支える大きな力です。それが伝統として継承されていくように、学校としても様々な形で協力していきたいと考えています。

今年度の地域学校協働活動については、保護者や地域の方々、さらに幅広い協力と理解を得られるよう、学校が本格的な活動を開始する6月以降、学校だより等の発信を強化したいと考えています。

学校のニーズを先取りしてくれる支援体制は、教育活動を進める上で本当にありがたく感じています。

地域学校協働活動推進員

佐藤 多喜さん 大山 歩さん

## 子どもを育てる「学校づくり」「地域づくり」の体制整備をすすめましょう

新型コロナウイルス感染防止の休業措置がようやく解かれ、市内の小・中学校で通常の教育活動が再開されました。それに併せて今年度の地域学校協働活動も開始され、各校において推進員の皆さんが、それぞれの学校のニーズとボランティアの方々の支援を繋ぎ、より効果的な活動を展開されているものと思います。「図書館の環境整備」「読み聞かせ」「登下校の見守り」の実施に加え、「校外学習の補助」「体育や家庭科の授業補助」、さらに専門家による出前授業（キャリア教育）など、今年度も継続した支援活動を期待します。子どもの学びや成長を支えていくのは「地域に開かれた学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の相互作用で生まれる力です。今後はこれらの「支援」に加えて、地域と学校が相互にパートナーとして「連携・協働」して行う活動へと発展させていければと考えています。

## 編集後記

今年度から「てとて」を担当することになりました生涯学習推進員の伊東暁生と申します。今年度も皆様へ役立つ情報をお伝えできればと考え取り組んでいます。よろしくお願いたします。

年度末年度始めの慌ただしい時期に、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業措置、様々な活動の休止など5月末まで非常時の体制がとられました。そんな不安な状況の中で編集作業を進めていたところですが、ご多忙の中、様々な方の協力をいただきながら、なんとか第33号を皆さんのお手許に届けることができ、一安心しています。